

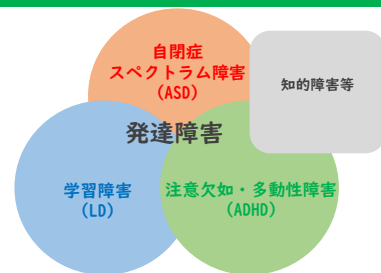
不登校に関連する 発達障害・心の病

発達障害

発達障害とは

- ①生まれつきの脳機能の発達の偏りによる障害
- ②得意・不得意の特性と、子どもが過ごす環境とのミスマッチから、社会生活に困難が起きやすい
- ③環境調整や特性にあったサポートをすることで、困難が軽減される

発達障害の3つの種類



自閉症スペクトラム障害 (ASD)

- ①従来、自閉症やアスペルガー障害と言われてきた診断名の総称
- ②コミュニケーションの場面で、相手の気持ちを理解したり、相互にやり取りをしたりすることが苦手
- ③特定のことに強い関心やこだわりがあったり感覚の過敏性があることも

学習障害 (LD・限局性学習症)

- ①知的発達の遅れはないが、読む・書く・計算するなどの特定の能力にのみ困難がある
- ②音読ができない、漢字や英単語を覚えるのが極端に苦手、音の聞き分けが難しいなど
- ③学習以外の困難さがあまり見られない場合が多いため気づかれにくく、努力不足だと思われるやすい

注意欠如・多動性障害 (ADHD)

- ①年齢に比べて、落ち着きがない、待てない、注意が持続しにくい、作業にミスが多い
- ②多動・衝動性優勢型と不注意優勢型、混合型に分かれる
- ③特性により、叱られることが多くなりがちで自信を失い二次障害につながることも

【臨床心理学】

関わる時に大切なこと

- ①診断名だけで判断しない（現れる特性は人それぞれ）
- ②何に困っているのか（アセスメント）、どうなるといいのか（目標）、どうすればその困難が解消されるのか（支援方法）を考える
- ③できていることを認める
- ④本人の強みを活かす・リフレーミング

【臨床心理学】

思春期に見られる心の病

【臨床心理学】

統合失調症・うつ病

<統合失調症>

- ①妄想、幻聴、幻覚などがあり、自我と外界との境界があいまいになる
- ②意欲の低下、感情表現の減少、考えがまとまらなくなる

<うつ病>

- ・気分が落ち込む、眠れない、食欲がないなどの症状により、日常生活に大きな支障が出る状態

【臨床心理学】

心身症・不安障害

<心身症>

- ①身体疾患の中で、その発生や経過に心理社会的要因が関わっているもの
- ②過敏性腸症候群、アトピー、喘息、頭痛など

<不安障害>

- ①精神的な不安から、心と身体に不快な変化が起き日常生活に影響を及ぼすもの
- ②パニック障害、社交不安障害、強迫性障害など

【臨床心理学】

場面緘黙症

- ①特定の場面で話すことができない状態（多くは、家庭では話しているが学校では話さない）
- ②不安の感じやすさや緊張しやすさに加え、心理社会的要因が複合的に影響していることが多い
- ③無理に話させようとせず、まず安心させる

【臨床心理学】

摂食障害

- ① 食事の量や食べ方など食事に関連した行動の異常が続き、体重や体型の捉え方などを中心に心と身体の両方に影響が及ぶ病気
- ② 10代～20代に多く、やせ願望や肥満恐怖、自立をめぐる葛藤、対人関係、家族関係の葛藤などがきっかけとなることも多い

精神科医

自傷行為

- ① リストカット、過量服薬、性的逸脱行動など
- ② 不安や孤独感などの不快・苦痛な感情をコントロールしよう、抜け出そうとする行為
- ③ やめるよう指導する・約束するのではなく、「話してくれてありがとう」
- ④ 「内緒にしてほしい」と言われても必ず職員に報告

精神科医

関わる時に大切なこと

- ① 診断名だけで判断しない（現れる症状は人それぞれ）
- ② さまざまな問題行動の背景には、これらの疾患による影響が隠れているかもということを忘れずに
- ③ 一人で抱えずに必ず職員に報告する

精神科医